
君の直感、私の罪。

万里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君の直感、私の罪。

【Nコード】

N3031K

【作者名】

万里

【あらすじ】

直感が真実にならなければ良い。

嫌なことは、考えないで欲しい。

謝罪と感謝と罪。私は、なに？

夕焼けが沈みかけ、だんだんと空が暗くなる。

1人、帰り道を歩いていると、後ろから足音が聞こえた。早足で歩いてきたのは美咲だった。

「由紀、ちよつと待って」

美咲が来て、私の横に並ぶ。

「どうしたの？」

そう問いかけて、美咲は一瞬だけ躊躇いを見せた。

「・・・1人にさせたら、いけない気がした」

美咲の直感は当たる。

今日の直感は、最悪のものだった。

「大丈夫だよ。事故にもあわないし、誘拐も絶対されない」

「わからないじゃん。何が起きるかなんて・・・」

美咲が心配そうに言う。私は笑って見せた。

「何も無いって」

「・・・一生後悔したくない」

別れの時が来る。

「由紀、大丈夫だよね？」

「大丈夫だって」

「じゃあ、気をつけてね」

「うん。じゃあね」

軽く手を振って別れる。最後に見た美咲の顔は、笑っていたように見えたが、少し不安そうな表情にも見えた。

大丈夫だって。そんな馬鹿なことあるわけないじゃん。

不安になることなんてないんだって……。

それから、私の記憶は飛ぶ。

次に記憶が戻った時、空はすでに真っ黒になっていた。

私の手が握っていたのは、音楽プレーヤーのイヤホンだった。そして目の前には

その首に赤黒い痕を残して、男が倒れている……。

あ、美咲に言わなくちゃ。私は大丈夫だよ。この通り全然平気だよ。

だけど、また直感が当たったね。すごいよ。あと、ゴメン。一生後悔させちゃうね。それでも今まで一緒にいてくれたこと、嬉しかった。

このことを知る前に、私のことを忘れて欲しい。私の一生で最後の願いだから、美咲にこれを守って欲しい。

パトカーの音が、徐々に近づいてくる

(後書き)

半分くらい実話です。

私の友人の直感も、当たります。でも、彼女は、自分で運命を変えることが出来るので、嫌な直感を変えてしまいます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3031k/>

君の直感、私の罪。

2010年10月31日03時20分発行